

川柳マガジンクラブ東京例会 4月

平成22年4月11日(日) 駒込学園にて

参加34名 出席22名 投句12名

秋山和子、伊藤三十六、飯島圭子、加藤品子、
加藤ゆみ子、河野桃葉、菊地順風、白勢朔太郎、
白子しげる、関 玉枝、水野絵扇、高田以呂波、
棚瀬くんじ、藤原栄子、丸山芳夫、村田倫也、
星野睦悟朗、南野耕平、山田こいし、甲野竜雄、
松橋帆波、植竹団扇。
欠席投句
石田きみ、E.L.V.I.S、小野六平太、味野和一柳、
佐道 正、土江裕美、徳島一郎、萩原ともよ、
正木三路、真野道雄、平松 健、ヨモギ。

自由吟句評会

桜咲く腰が浮き出す日本人 品子

作者 自由吟が浮かばなくて、苦肉の策で当たり前の作り方になってしまった。

整形をしながらソフト舐め回す 団扇

パソコンのソフトかと思う。玉枝
ソフトクリームでは。竜雄

整形した顔でペロペロ舐める情景は面白かったが。

睦悟朗

意味が判らなかつたが。ただソフトだけでは判り難いので。三十六

作者 ソフトクリームを舐めている状況。クリームの形を

整形している。

知らなかつたことを誇りのように言ひ 健

時事として「議員」を念頭に読むと句意が見えてくるのでは。帆波

作者コメントはございませんでした。

将来を見込みやる気へ注ぐ投資 玉枝

作者 固すぎて、そのままの作りだなと反省しています。

古い同土お箸が欲しいフルコース きみ

確かにフルコースは、お箸が欲しいときがある。判る句です。絵扇

作者コメントはございませんでした。

ほどほどに幸せ感じて眠ります ヨモギ

色々な人の訃報を聞くにつけ健康でいられることは幸せだなと感じます。桃葉

おもしろそうだが、もう少し判る句なら。芳夫

「て」を取って、中八を修正したものと比較してみたい。

帆波

作者 この頃は何でもほどほどがいいなあと思うようになりまして。この世を去る時もほどほどに幸せを感じたいと……。

そっとしてやりたい孫がウツに泣き 三路

「そっとしてやりたい」の後に一時空けを使うと、伝わりやすいのでは。帆波

作者 孫がウツ病にかかり、毎日泣きながら電話をしてくるのですが、どう慰めてやればいいのか最近困っています。その愚痴を詠んでみました。

違うぜよ竜馬が叫ぶ桂浜 六平太

テレビの役者のようにハンサムではないしカッコよくもないと叫んでいると思うと面白い。ゆみ子

作者 鳩山邦夫議員と重なってしまいました。竜馬ブームの今年、多分竜馬は現状の日本に腹を立てているに違いないと そんな気持ちなのです

見上げれば桜 下ろせばホームレス こいし

ホームレスが惜しい。青テントではどうか。人間を見下ろすという風にしないほうがソフトに仕上がるのでは。

竜雄

下ろせば、は見下ろせばの略で、ホームレスを見下ろすとは違う表現がなかったか。睦悟朗

下には、という表現では。三十六

作者の立ち位置。遠くから眺めているの風景になればどうか。帆波

作者 たまたま見た公園の風景。桜との風景の差を表したかった。見下げるではなく、見下ろすとしたが、詰めきれなかった。

杖つきし人のゆき交うホスピタル 栄子

上五を「杖をつく」とするとくだけてくるのだが、面白くない。「杖つきし」の方が面白い。文語体と口語体の印象の差に気付いた。帆波

「杖つきし」は過去形。現在形なら「杖つける」となる。

それによって印象が異なる。耕平

作者 下五「彼岸かな」で俳句として投稿した作品を直してみました。

隣席のボタンの感覚確かめる 道雄

国会での事件のことでは。こいし

バスで隣り合った人に話しかける場面というところ「感覚」ボタンを感度としても同じ意味になるのだろうか。

睦悟朗

作者コメントはございませんでした。

本物と偽札の差は紙一重 一郎

印象の強い事件があれば、連想も広がるのだが、一般論としてはどうだろうか。帆波

最近中学生による事件がありましたね。竜雄

作者 コピー万能時代。限りなく本物に近い偽札が横行しています。

呼んでない社長も笑う四月馬鹿 くんじ

作者 会社の受付などで、エイプリル Fool に社員に社長が呼んでいると伝える。その時のことを詠みました。

岩燕飛ぶと水車が唄い出す 和子

作者 旅行に行きたいと思い、昔行った温泉のことを思い出して詠みました。

春雨の思いを馳せる花見酒 裕美

桜の時期の天候の心配では。帆波

作者コメントはございませんでした。

ちょっと待て今天国が混んでいる 三十六

面白い。お婆さんにお爺さんがまだ来ないでいいよと言っているみたい。絵扇・品子

全体的に非常にすらっと読め、天国が混んでいるので、もう少し長生きしなさいという、今の長寿社会に合っている。朔太郎

電車の人身事故のニュースを思うと、この作品を駅に掲示しておけばいいのと思った。圭子

川柳らしく、形もよく、いい句だと思えます。ゆみ子
反対の意味に取った。深く読むと、天国は空いているはず。みな自惚れて天国へ行けると思っている。大変面白い作品です。竜雄

作者 色々なご意見があると思いますが、自殺の名所に看板として立ててみたい。

台詞なら言える私の処世術 帆波

有限実行というか、人生を詠んでいると思う。しげる
口だけなら色々良い事が言えるなという感じですが。和子
建て前を言うなら簡単で、良いことを言ったようでも建て前に過ぎない。くんじ

処世術を大真面目に語るのには照れくさい、劇の主人公になって一度は語ってみたい気持ちは判る。倫也
台詞は理想ではなくありきたりの台詞という意味では。

芳夫

作者 本首を言っただけなので、そんな場合に台詞のようなものがあった、それが言えればという願望。

半世紀舞台惜別小挽町 以呂波

歌舞伎座のことを綺麗に詠んでいる。圭子
歌舞伎は好きでよく行きます。品子

歌舞伎座は今月で一旦閉館し、三年後に新築される。この作品を読んで「木挽町」と叫んでみたくなった。

睦悟朗

作者 今月で取り壊しなので、これまで気にしていなかった建物の隅々までよく見てきました。

伸びしろを実感させる今日の負け 順風

自分の成長を悟ったような、そんな場面。しげる
負けて悔しさを知り成長する。若い人たちのことを言っているのでは。こいし

発展してゆくから負けに気がつく。伸びるからこそ悔しい思いをし負けを認める。ゆみ子

伸びしろ、というところが判りにくかった。三十六
野球などでも同じ負けでも最後に少し抵抗できれば次につながる。芳夫

作者 負けた時の方が学ぶことが多いという、イチロー選手の手言葉から発想しました。順風

或る日突然鏡に別の顔がある 倫也

そんなに鏡は見えないが、薄くなったといわれたときにまじまじと見た。実感句です。睦悟朗

歳月の速さにおどろくという印象。桃葉

句意は判るが、状況を限定させる表現が多いので、連想が広がる言葉があれば。帆波

作者 「ぎよっとする」という題で作った作品です。

震度六筆筒のゆれる音で知る 竜雄

震度六という大きな地震だが、筆筒の揺れを持ってきたところがいいと思います。順風

震度六とオーバーに言ったところが面白い。以呂波
越後の地震を思い出した。取っ手のある筆筒は都会では見かけなくなつたが、震度七だと大変だが、地震と筆筒の揺れる音の対比が面白い。朔太郎

作者 家に母親が嫁入りした時の明治の筆筒がある。地震の際その取っ手が鳴る。そのリズムで地震の大きさが判る。

育活で公園デビューパパとパパ 絵扇

よく見る光景。下五が微笑ましい。耕平

作者 独身男性が育活の教室に通っていたりする。その風景。

息継ぎのコツは吸おうとしないこと 芳夫

面白い。物事の本質を捉えて表現する視線の鋭さを感じる。帆波

スイミングに通っているので実感句としていただきました。栄子

ドルヒラ泳法を連想。カラオケかも。団扇
吸おうとしないこと、とスパッと表現したところがいい。

順風

作者 木原光知子さんの水泳教室での「コマを詠んでみました。

酔っ払い電車に合わせ揺れている 正

電車の中で吊り革にぶら下がっている酔っ払いの風景。面白いと思います。倫也

この風景を見ている作者がいることが面白い。団扇
酔っ払いが電車に合わせて寄れているだけなら面白くも何ともないが、それを見ている人の視点があつて面白さが出てくる。竜雄

作者 見た通りです。報告句でしょうが、

現ナマを分厚く見せる茶封筒 朔太郎

封筒に入っていると厚く見えるものだなと思えました。面白い句です。芳夫

茶封筒に入っていると、いわくめて見える。銀行の袋では面白くないですね。団扇

作者 現金を分厚く見せるのは何かと考え、茶封筒だろうと行き着いた。

愚痴囲み昼のケーキが良く笑う 桃葉

話の内容は、夫を扱き下ろしたりするのでしょうか。ケーキがよく笑つ、というところが面白いと思えました。しげる

ケーキではなく「愚痴囲み」としたところがいい。以呂波

情景が浮かぶ。ケーキが笑うがいい。倫也

上下の対比もいい。帆波

次点として選ばせていただきました。陸悟朗

作者 時々やるお喋りの風景です。

ひとりではできないことをするふたり 耕平

実感句としていただきました。栄子

オール平仮名で、最初回文かと思っただが、色々な意味に取れて面白い。三十六

回文的な匂いを漂わせていて、色々な意味にも取れる、上下の対比も面白い。そのきっかけがオール平仮名というところがいい。帆波

作者 オール平仮名を句風にとられるか、見せびらかすように取られるか、具象から抽象を読み取る人と、抽象から個々の具象を読んでもらうか、ひとり、二人を入れ替えたり、ふたり、さんにん、と連想していただいたり、そついったことを考えて作りました。

アハハハ歳にゃ勝てんでちよんにする 陸悟朗

川柳らしくすると言葉の勢いが弱くなる。この作品は川柳というよりコピ一的で言葉の勢いを感じる。耕平

こつという表現もあるなと思いました。品子

作者 喋り言葉で詠んだ場合どのような反応をいただけるか試してみました。

少子化で課税されるか長寿税 圭子

我々が老いたときに本当になるのではないかしらと思わせられた。絵扇

今の時代を思うと、こつこつこつともあるのかもと思ってしまう。玉枝

国の借金が増えて、若い人が少なくなると、長生きした人から税金が取られるのではないかしらと思ってしまう。桃葉

保険料が上がっている中で、実際起きるのではないかと心配です。こいし

作者 歳を取って入院をしてみると、お金が掛かると思うと同時に、シルバーパスなどを考えるとこれでいいのかなども思ってしまう。

三分粥する確かに明日へ生き 一柳

生きるこの実感が十分伝わってくる作品です。順風
生きて行くためには食べなければならぬ。その意欲があれば明日もある。こいし

入院をしたときの実感として、点滴から粥になったときの思い。竜雄

作者 十日ほど入院手術。その時の句です。現在は元気回復です。

見えてたらきつと切られる赤い糸 ゆみ子

赤い糸は見えていないから赤い糸なのであって、その逆を詠んでいて面白い。芳夫

いい句です。羨望の目で読みました。三十六

作者 若い頃は赤い糸を見たいと思っていたが、今だとしたら切られてしまうのではと思う。「い」の首を使って緊張感を出してみました。

皮を剥くナイフの色に染まる桃 ELVIS

見方が逆転している。桃の色にナイフが染まることだと思ふ。芳夫

桃は女性。ナイフは男の方。お嬢様が男の方の色に染まる。そんな意味では。圭子

何故桃の色に染まるのではなくて、ナイフの色なのか。くんじ

ナイフと桃の組み合わせをどのように捕らえているのか、判ったようで判らない。朔太郎

あえてナイフの色に染まるとされているのは何故か。以呂波

単純に桃でなくてもいいのではと思っただが、桃で何かを表現しているのかと思う。玉枝

ナイフの肌に桃が写る、ではなく逆になっている、そこから連想が広がって行く。ナイフ、桃、それぞれの言葉の強弱を考えながら作られているのでは。帆波

何かを何かに喩えた川柳ではないのでは、「桃の色に染まるナイフ」という表現を逆転させてみたのでは。意味を取ろうとすると疑問点が出てきてしまう。言葉の可能性を広げる試みでは。耕平

作者コメントはございませんでした。

あれと言いいこれと応じて恙無い じげる

判る作品。上手いと思います。耕平

あれと言えば通じる睦まじい夫婦でいいなと思えます。栄子

長い夫婦をしていると思います。とてもいいと思います。玉枝

同想は見かけるが、恙無いとしっかり納めたところが楽しい。陸悟朗

実感句として判ります。絵扇

作者 あまり会話がない我が家をモチーフにしてみました。た。

駐車禁止光るチョッキが語りだす ともよ

光るチョッキが命令長で言っているようにそれで抵抗できないという感じを受けました。和子

光るチョッキは警官の制服だろう。くんじ

語りだすというのが判らなかつた。光るチョッキというのは上手い表現だと思っただが。芳夫

作者 最近、よくチョッキを着て仕事をしている年配の方を見ます。がんばって働いている姿はカッコいいです。チョッキが半分仕事をしているような気がしました。



課題吟「ニコニコ」 松橋帆波選

「秀句」

坊主よりましと外道に恵比寿顔 睦悟朗
 新法へ笑い止らぬ多産系 品子
 ニコニコの母は画用紙溢れ出る 桃葉
 ニコニコと笑う赤ん坊今だけよ 栄子
 七対子にすればいいのにドラを鳴き 団扇
 祖母卒寿一寸晩酌恵比須顔 以呂波
 事件です静かに笑う妻が居る 耕平
 営業の笑顔たんで今日を終え きみ
 二番目の笑顔は僕がもらいます 耕平
 満面の笑みで宇宙へママが発つ ゆみ子
 ニコニコと主治医の多弁気に掛かる しげる
 ニコニコと主治医の多弁気に掛かる 圭子
 二十四時ニコニコ顔は続かない ゆみ子
 笑顔にも松竹梅があるらしい 朔太郎
 ばらついた鬘で笑顔のインタビュー きみまる
 きみまるの毒をみんなが浴びたがる 睦悟朗
 白バイがニコニコ横に寄ってくる 芳夫
 満面の笑顔でつくる防波堤 耕平

「特選」

微笑を作る一瞬見てしまい 芳夫
 ニコニコはにっこりよりも肩が凝り 団扇
 長生きへ作り笑いを勧められ 栄子

軸 婆ちゃんの看板娘だった皺 帆波

「選後評」

課題と遠い作品は、悪いという意味ではなく、競吟としては今回選べなかったという意味で理解していただければと思います。

- ・ニコニコと浮気の証拠示す妻
- ・あやされて笑顔振りまくベビーカー
- ・ベビーカー覗く笑顔にひきこまれ
- ・ニコニコと探り合ってる腹の中
- ・三年目愛想笑いも板につき

などは、同想も多いですが、仕立ての似たものが過去に多く、具体性を求めるか、具体性を外して広がりを求めるか、改めて仕立て直されるとよいかと思います。

・知らなかったで頬被りした議員
 は、判らないではないが「ニコニコ」の範疇からは少し遠いのではないかと判断しました。

- ・桜咲く日本列島春が舞う
- ・万馬券取った夢見ている寝顔
- ・大吉を引いて口許緩みだす

これらの作品は、状況そのものになっていますので、作者の立ち位置が見えれば良かったかと思いません。

・五割引毛蟹ニコニコ泡を吹く
 毛蟹は買われる立場なのだが、という理屈の点で疑問が残りました。

・僕にだけ「至急便」という表現の具体的な意味が判り難いです。

・お待ちかねホットケーキができました
 ホットケーキでなくてもいい。必然性が欲しいと同時に、意外なものであったらどのように広がるか、という印象を持ちました。

・我が子とは知らずにいつも笑う母
 作品の全体が判らなかつた。もう少し見えればと思つ。

・漫才師ニコニコしても腹は別
 漫才師でなくてもいいのでは。

・ニコニコと淋しさ隠し送り出す
 誰を送り出すのか。淋しさを隠すというだけでは絞り込めない。

・股間から羅漢に春が露の臺
 語順を変えて比較してみた。「露の臺羅漢の股間からの春」など。

・ニコニコとハートにメール飽きてくる
 「ハートのメール」と比較検討してみたい。

五分間吟「草」

野にあって雑草なんて呼ばせない ゆみ子
 草笛に少年の夢空駆ける 品子
 判読が不能草書のラブレター 団扇
 草に寝て遊子の旅はまだ続く 品子
 抜かれてもやがて芽を出す草の意地 しげる
 草々とあり悩ましき女文字 帆波
 七草を暗記するのも七五調 芳夫
 サラダ菜の元気をもらうプランター 玉枝
 草いきれ胸一杯に吸ったキス 団扇
 雑草に似合わぬ花が凜と咲く 耕平

「特選」

野草の名問えば即答する白寿 以呂波
 すみれだけよけて畑の草をとる 睦悟朗
 草を引く後姿が父である 耕平

軸 草食って血液型を変えてみる 三十六

まとめ 以上
 松橋帆波